

第37期(平成25年6月期)決算説明会資料

株式会社ユビテック
代表取締役 荻野 司
(JASDAQ 6662)

本日ご説明申し上げる情報のうち、業界の動向や分析、当社の計画・見通し・戦略等につきましては、将来の業績に関する予想値であり、現時点において入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

実際の業績はさまざまな重要な要素により、かかる予想値とは大きく異なる結果となる可能性がございますことをご了承下さい。

なお本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

● 会社概要

次世代ユビキタス技術の創造に挑戦

技術と顧客志向

ユビテック プロフィール

1977年11月 会社設立
 1986年9月 **新日本製鐵(株)**の子会社となる
 1993年4月 液晶プロジェクター用**映像エンジン**の開発
 1998年4月 **ATM**(現金自動支払機)、両替機用検知ユニットの開発
 1999年4月 液晶テレビ用映像エンジンの開発
 2002年4月 (株)インターネット総合研究所の100%子会社となる
 2004年7月 タウ技研(株)から(株)IRIユビテックへと社名変更
 2004年9月 **パナソニック電気(株)**(現:**パナソニック(株)**)資本参加
 2004年11月 **三井物産(株)**資本参加
 2004年10月 ISO14001・9001認証同時取得
 2005年6月 **大証ヘラクレス市場に上場** (証券コード:6662)
 2006年8月 (株)ユビテックソリューションズ(旧(株)日本エンジニアリングシステム)を子会社化
 2007年4月 ベトナムに「Ubiteq Solutions Vietnam, Ltd.」設立
 2007年11月 **オリックス(株)**のグループ会社となる
 2007年12月 (株)IRIユビテックから**(株)ユビテック**へと社名変更
 パナソニック電気(株)(現:パナソニック(株))資本提携発表(第二位大株主へ)
 2008年7月 大阪事務所開設
 2008年9月 オリックス自動車(株)カーシェアリングサービス「ブチレンタ」用車載システムを開発。
 2008年11月 オフィス向けインターネットと設備制御の統合ゲートウェイ「BX-Office」を開発
 2009年12月 ネットワンパートナーズ(株)から**シスコ合同会社のルータ**と当社のBX-Officeシリーズを組み合わせた**CFMS by BX-Office販売**
オリックス(株)の直接子会社となる
 2010年6月 **SaaS型省エネサービス**「Ubiteq Green Service(UGS)」(現「BE GREEN Next」)の提供開始
 2011年2月 **キヤノン Sタワー**にUGSを導入
 2011年6月 「Interop Tokyo 2011 Best of Show Award」でUGSが**特別賞**を受賞
 2011年9月 **大塚商会本社**にUGSを導入
 2011年10月 「グリーンITアワード2011」でUGSが**経済産業省商務情報政策局長賞**を受賞
 2011年12月 **日本マイクロソフト本社オフィス**にUGSを導入
 2012年6月 オリックス所有ショッピングセンター「**クロスガーデン多摩**」にUGSを導入
 2012年9月 「賢い企業のスマート節電ガイドブック」出版
 2012年12月 「第7回ファシリティマネジメント大賞」でUGSを活用した省エネ活用事例が**技術賞**を受賞
 2013年1月 「平成24年度省エネ大賞」でUGSを活用した省エネ活用事例が**省エネルギーセンター会長賞**を受賞

荻野 司 プロフィール

1986年キヤノン(株)入社。中央研究所を経て、ハードウェア及びソフトウェア設計等、新製品の開発に携わる。その後、ISP事業開始のため1996年ファストネット(株)へ出向。1999年同社取締役役に就任。2000年(株)インターネット総合研究所(以下、IRI)執行役員に就任。同年(株)インターネットシーアンドオー代表取締役社長に就任し、キヤノングループやNTTファミリー企業とジョイントベンチャーによるMSP(Managed Service Provider)事業を起業する。

2000年から(社)日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)のIP担当理事を務め、日本におけるインターネットの普及基盤整備に尽力。また、IPv6普及・高度化推進協議会には設立時より参画し常務理事を務めIPv6普及の啓蒙活動にも注力。2002年にIRI取締役に就任し、同年、ユビキタス時代におけるネットワーク、コンピュータとの融合技術を中心とした研究・開発組織、ユビキタス研究所を設立。また、IPv6・センサネットワークングコンソーシアム運営委員を務め、non-PCや施設管理におけるインターネット利用など、次世代インターネットプロトコルIPv6を基軸としたインターネット高度利用研究にも注力。

2003年9月に(株)ユビテック代表取締役社長に就任し、2005年6月には大阪証券取引所ヘラクレススタンダードに同社の上場を果たす。(証券コード6662)

また、2005年からは、ワイヤレスブロードバンド推進協議会の発起人も務め、WiMAXを中心とする次世代インターネット技術の普及や啓蒙活動に注力する一方、現在は、ファシリティ分野におけるIT利活用のための活動として、東京大学におけるグリーンITプロジェクトに参画。ITを用いた「やりたくなる省エネ」の実現に注力している。静岡大学創造科学技術大学院 客員教授(2004年-2009年)、同大学院アドバイザー(現)も務める。

役員構成

明石直人(常務取締役) * 常勤	(株)富士銀行(現 (株)みずほ銀行)等を経て平成16年2月当社入社
白木道人(取締役) * 常勤	キヤノン(株)を経て、平成16年7月当社入社
野方孝之(取締役) * 常勤	(株)日本債券信用銀行(現 (株)あおぞら銀行)、三洋電機(株)等を経て、平成18年6月当社入社
徳田英幸(社外取締役)	カーネギーメロン大学 計算機学科を経て慶応義塾大学 政策・メディア研究科委員長 兼 環境情報学部長
江崎浩(社外取締役)	(株)東芝 総合研究所、ベルコア社、コロンビア大学CTRを経て東京大学 大学院教授
梁瀬行雄(社外取締役)	(株)あさひ銀行(現 (株)りそな銀行)頭取、オリックス(株)代表執行役社長を経てオリックス(株)相談役 兼 (株)TDK取締役
錦織雄一(社外取締役)	(株)日本興業銀行(現 (株)みずほ銀行)を経てオリックス(株)執行役事業投資本部長
林雅弘(取締役) * 非常勤	日本アイ・ビー・エム(株)、(株)デロイトトーマツコンサルティング(現アビームコンサルティング)、等を経て (株)日本エンジニアリングシステム(現(株)ユビテックソリューションズ)代表取締役社長
平田満(監査役) * 常勤	新日本製鐵(株)、当社取締役を経て、平成24年9月当社監査役就任
小林稔忠(社外監査役)	東京証券取引所、日本勧業角丸証券(株)(現 みずほ証券)公開引受部長、 (株)日本ソフトバンク(現 ソフトバンク(株))常務取締役を経て平成15年9月当社監査役就任
与謝野 肇(社外監査役)	(株)日本興業銀行(現 (株)みずほ銀行)、興銀インベストメント(株) 取締役社長、みずほキャピタル(株) 専務取締役を経て平成16年9月当社監査役就任
高橋通(社外監査役)	キヤノンカメラ(株)、キヤノン(株) 取締役、Canon USA Inc. Executive Vice President & CTO, Canon Development Americas Inc. President &CEO を経て平成18年9月当社監査役就任

事業セグメントと主な事業内容

事業名称	主な事業内容	キーワード
電子機器事業	<ul style="list-style-type: none"> ● ATM(オートテラマシーン)に内蔵されている主要モジュールシステム 開発・生產業務 ● カーシェアリング車載システム等のサーバーと端末のセットソリューションサービスの開発・生產業務 ● テレマティクスサービスのサーバーと端末のセットソリューションの開発・生產業務 ● ハードウェア設計、ファームウェア設計、量産化設計から生産までを一貫して実施 ● 上記テクノロジーを融合させた新技術の開発業務 	<p>センサーモジュール</p> <p>カーシェアリング</p> <p>テレマティクスサービス</p> <p>カラオケ端末</p>
モバイル・ユビキタス事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ対応ソリューション開発 ● 携帯電話端末評価業務 ● IPネットワーク(有線・無線)設計・構築・運用支援業務 ● 次世代ネットワーキングテクノロジー「IPv6」に関する技術開発業務 ● Web2.0テクノロジーを活用したWeb2.0ソリューション事業 ● 組み込み型ソフトウェアの受託開発およびシステム開発等の人材派遣 	<p>省エネ</p> <p>ユーザーエクスペリエンス</p> <p>WiMAX</p> <p>IPv6</p> <p>SNS、マッシュアップGIS</p> <p>金融システム、医療システム</p>

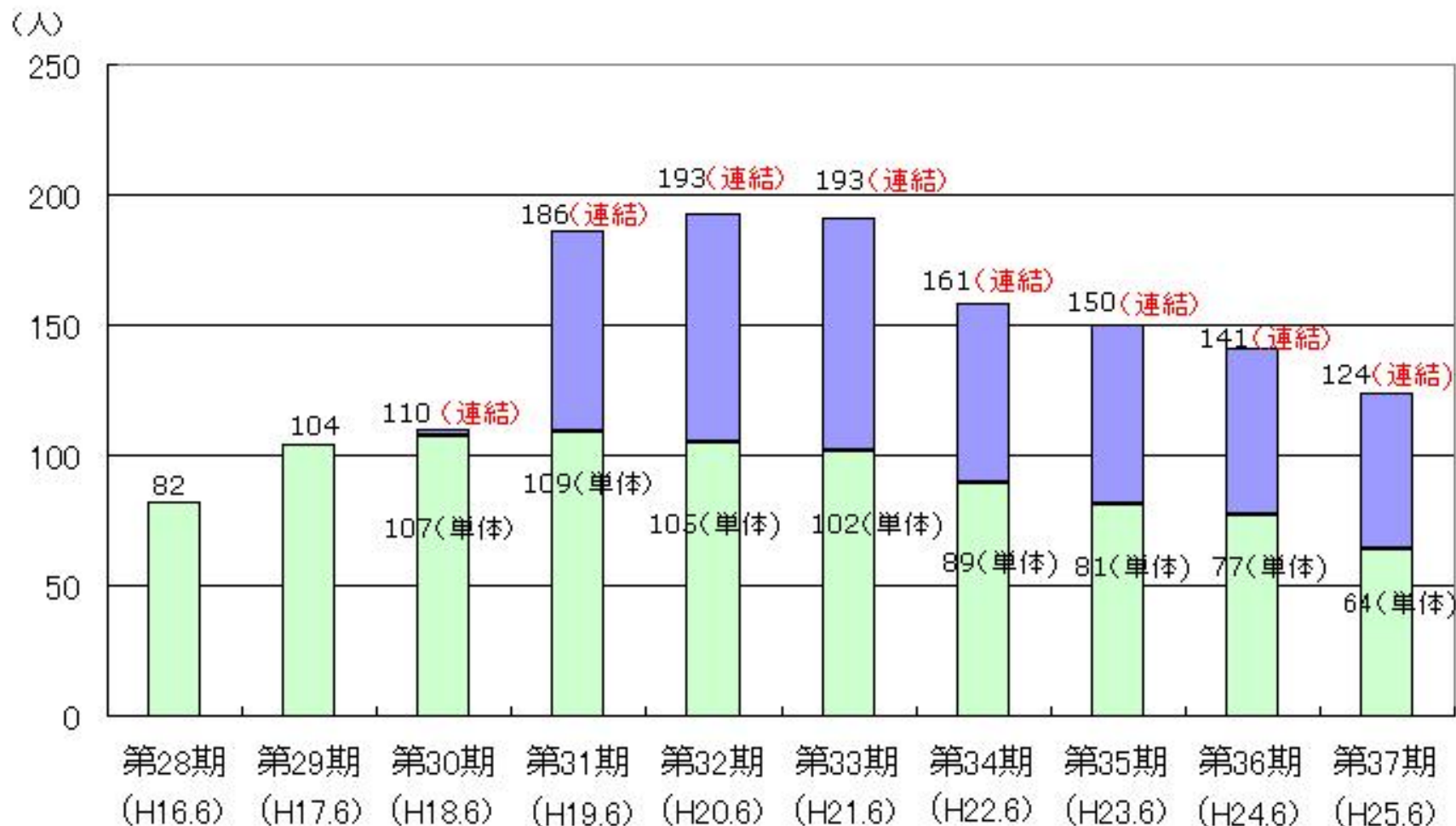
株主構成

(2013.6.30現在)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
オリックス株式会社	85,272	59.60
パナソニック株式会社	14,400	10.07
荻野 司	2,884	2.02
土屋 延寿	1,520	1.06
糸谷 輝夫	1,475	1.03
その他	37,517	26.22
合計	143,068	100.00

※上記には当社所有の自己株式1,400株は含まれておりません。
※出資比率は議決権数の比率を記載しております。

人員推移



注) 出向者、派遣、アルバイトスタッフなどは除いた人数となっております。

- 当社業績について

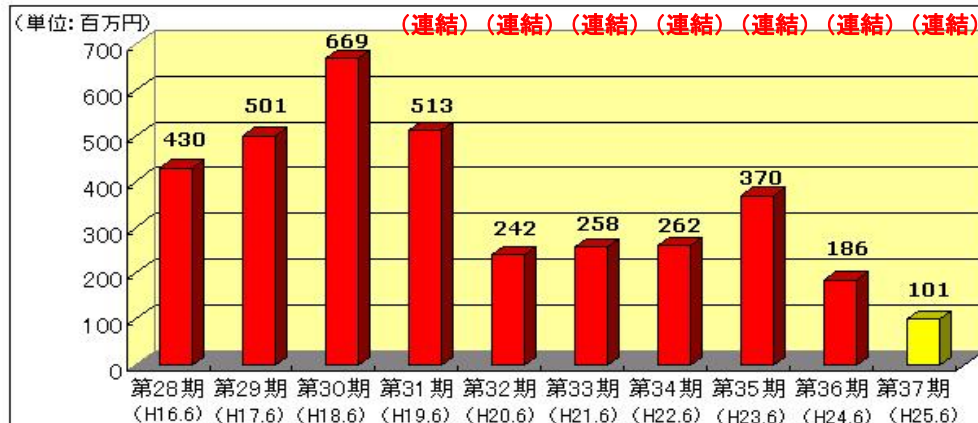
過去業績推移

(連結) (連結) (連結) (連結) (連結) (連結) (連結)



売上高

営業利益



※第30期(H18/6)より連結開始

業績トピックス

第28期: 売上の約半分がシャープ向け映像エンジン。

第29期: シャープ向け売上高大幅減少し、前期比売上高▲20億円となるも、高利益率案件確保し営業利益は前期比増加。

第30期: WiMAX支援事業により大幅増収増益。

第31期: WiMAX支援事業大幅減少するも、センサー事業(ATM等)・映像事業(UBIRIS)好調で売上高ほぼ横ばい。

第32期: センサー事業大幅減少により前期比大幅減収減益。

第33期: モバイル事業・UBIRIS受注が減少したが、パナソニック電工からの受注増加、オリックス自動車向けカーシェア車載機販売開始により営業利益前期比微増。

第34期: モバイル事業、子会社の受注減及び電子機器既存量産品が減収となるも、コスト削減及び自社開発製品で営業利益は前期比微増

第35期: 電子機器事業は、生体認証モジュールや紙幣鑑別ユニット等のセンシングモジュールの需要回復による受注が増加し、オリックス自動車向けカーシェア車載機が堅調に推移。UGSも拡販中。

第36期: センサー及びカーソリューション事業、子会社は堅調に推移したものの、携帯電話の評価業務や総務省(国プロ)からの受注が減少。

第37期: センサー事業は前期比売上微減、カーソリューション事業は横ばい。携帯電話の評価業務の売上減少。

第37期(平成25年6月期)通期決算概要

(単位:百万円)	第37期 (H25.6) 売上	前年同期 売上実績	前年比 (増減)	前年比 (%)	第37期 (H25.6) 営業利益	前年 営業利益 実績	前年比 (増減)	前年比 (%)
電子機器事業	2,178	2,324	△146	△6.3	409	496	△86	△17.5
モバイル・ユビキタ ス事業	1,135	1,291	△156	△12.1	5	9	△4	△47.2
共通費	—	—	—	—	△313	△319	6	△1.8
合計	3,313	3,615	△302	△8.4	101	186	△85	△45.4

■セグメント別トピック

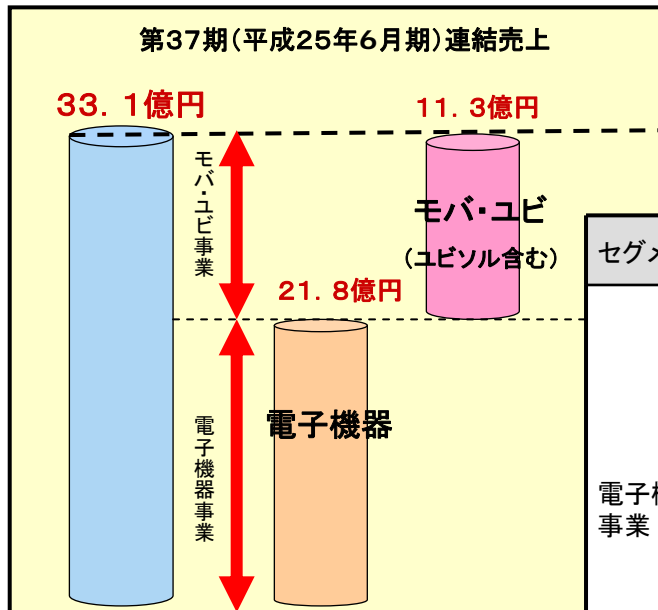
電子機器事業

- ・紙幣鑑別ユニット等のATM向けセンシングモジュールが中国問題の影響を受け前期比微減
- ・カーソリューション事業は前期並みの売上
- ・新機種開発投資継続中
- ・仕入コストや外部委託費用については削減を継続

モバイル・ユビキタス事業

- ・子会社のユビテックソリューションズは堅調に推移
- ・携帯電話の評価業務については売上減少
- ・BE GREEN Next(旧UGS)は売上貢献には至っていないが、第7回ファシリティマネジメント大賞「技術賞」および、平成24年度省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」を受賞し、拡販活動中

ユビテック事業一覧(セグメント別)



セグメント		現在	将来
電子機器事業	画像(センシング)	【顧客】日立オムロンターミナルソリューションズ、他 【製品】スキャナセンサ、セキュリティモジュール、医療系センサモジュール	【展開】同業他社へ横展開 【製品】各種モジュールとネットワークの融合製品開発
	カーソリューション	【顧客】オリックス自動車 【製品】カーシェアリング用車載端末システム、テレマティクスサービス	【展開】カーソリューション関連サービスへ 【製品】ユビキタス車載端末
	その他	【顧客】エクシング 【製品】カラオケ関連端末	【展開】機器メーカーへ 【製品】高速化、高精細化
モバイル・ユビキタス事業	モバイル	【顧客】ソフトバンクモバイル 【サービス】携帯電話端末総合評価	【展開】携帯電話キャリアへ 【サービス】Android評価
	ユビキタス	【顧客】ジャパンケーブルキャスト、日本医師会、IPA 他 【サービス】ネットワークおよびインフラの設計と構築、省エネソリューション	【展開】CATV、住宅・不動産産業、テナントオフィスへ 【サービス】次世代ネットワーク、Web2.0、省エネ
子会社	ユビテックソリューションズ(ユビソル)	【顧客】日本電子、明治安田システムテクノロジー、ベックマン・コールター 【サービス】機器組込みソフトウェア開発、業務用アプリケーション開発	【展開】医療、通信メーカーへ 【サービス】機器組込みソフトウェア開発、業務用アプリケーション開発

貸借対照表(B/S)サマリー推移

(単位:百万円)		第33期	第34期	第35期	第36期	第37期
流動資産		3,411	3,519	3,834	3,897	4,024
	うち現金及び預金	1,876	2,273	2,801	2,584	2,494
	うち受取手形及び売掛金	1,121	1,003	835	1,184	1,388
固定資産		385	312	241	226	216
	うち有形固定資産	80	83	76	75	77
	うち無形固定資産	50	32	16	14	13
	うち投資その他資産	255	196	148	137	216
資産合計		3,796	3,832	4,076	4,124	4,241
流動負債		706	643	695	673	735
	うち支払手形及び買掛金	429	441	417	480	558
	うち短期借入金	—	—	—	—	—
固定負債		79	66	61	58	47
	うち長期借入金、社債等	—	—	—	—	—
負債合計		785	709	757	731	783
資本金		853	860	877	880	882
純資産合計		3,011	3,122	3,318	3,392	3,457

現預金は潤沢

オリックス自動車向け売掛金増加

借り入れゼロ

自己資本比率79.9%。高水準を維持。

キャッシュ・フロー(C/F)サマリー

(単位: 百万円)	第33期	第34期	第35期	第36期	第37期
営業活動によるキャッシュ・フロー	402	419	531	△160	△55
投資活動によるキャッシュ・フロー	4	△42	△1,040	△35	△616
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34	△20	△3	△36	△40
現金及び現金同等物の増減額	368	354	△522	△236	△692
現金及び現金同等物の期首残高	1,507	1,876	2,193	1,671	1,434
現金及び現金同等物の期末残高	1,876	2,193	1,671	1,434	742

定期預金
預入による

37期 (2012年 7月 ~ 2013年 6月)

2013/06/11	「品川区エコパワーカンパニー」に認定
2013/06/03	「安全なAndroidアプリケーションのための10箇条」を公表 ～安全なAndroidアプリケーションを実現するために気をつけるべきこと～
2013/03/26	IPA、「セキュアな自動車」に向けて「自動車の情報セキュリティへの取組みガイド」及び「2012年度 自動車の情報セキュリティ動向に関する調査」を一般公開 ～自動車の情報セキュリティ取組み事項のまとめ及び技術・事例調査に協力～
2013/02/01	HEMS導入事業に係る補助対象機器」に認定 ～家庭用省エネシステム「BE GREEN Next Home (HEMS)」が採択～
2013/02/01	ユビテックソリューションズ、人材管理ソリューション「チームスピリット」を本格的に発売
2013/01/24	「平成24年度省エネ大賞」受賞報告 ～「UGSを活用した省エネ活用事例」で「省エネルギーセンター会長賞」を受賞～
2012/12/21	「第7回ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞)」受賞報告～「UGSを活用した省エネ活用事例」で「技術賞」受賞～
2012/11/29	「BE GREEN Next」国際標準通信規格への適合を確認 ～東大グリーンICTプロジェクト IEEE1888通信装置の接続試験に参加～
2012/10/10	ユビテックソリューションズ、手作業によるシステム上の作業を自動化する業務代行システム「Biz-Robo」を発売
2012/10/03	「LiveE！プロジェクト第1回サイエンスコンテスト」開催 ～ユビテックが協賛した環境情報の有効活用コンテスト結果発表～
2012/09/26	「賢い企業のスマート節電ガイドブック」出版 ～ ITで実現する、無理をしない節電方法をご紹介～
2012/09/06	「Ubiteq Web サービスサイトを公開」～ユビテックの各種サービスを独自Webサイトでご紹介・ご利用・ご決済が可能～
2012/09/03	「Ubiteq Androidユーザビリティ評価サービス」をサービスイン ～AndroidOS実装端末、Android実装アプリを対象とした第三者評価サービス～
2012/09/03	「Ubiteq Androidアプリ脆弱性検証サービス」をサービスイン ～Android実装アプリケーションを対象としたセキュリティ脆弱性の診断サービス～
2012/07/03	ユビテックソリューションズ、アプリケーション開発保守業務をサポートする システム解析ツール 「REVERSE PLANET」を発売

(2013/8/19までのチャート)



2005年12月20日	1株→2株の株式分割
2006年2月20日	立会外分売 827株
2006年4月7日	ブロックトレード 500株
2006年10月3日・5日	ブロックトレード 2,500株
2007年2月23日	自己株式取得完了(買付株式数:350株 買付総額:75,474,000円)
2009年4月1日	1株→4株の株式分割

1株当たり配当金

平成23年6月期配当実績	300円
平成24年6月期配当実績	300円
平成25年6月期配当予想	300円

配当利回り 0.87% (平成25年8月19日 株価:34,500円)
配当性向 48.5% (平成25年6月期)

【基本方針】

下記2点をバランスを取りながら実施

- ①企業価値の最大化に向けた内部留保の確保
→事業拡大、成長投資(人材への投資、設備投資等)
- ②株主の皆様への還元

- 当社事業概要と今後の展開

UBITEQ BE GREEN



UBITEQ ECO PROJECT

～ユビテックはBE GREENソリューションを進化させ、

新しくUBITEQ BE GREEN SOLUTIONとして提供を開始します～

- 「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」とは、地球環境保全に向け、企業の課題を解決するユビテック新環境ソリューションです。
- 当社のユビキタス技術を駆使し、**「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」**の実現を支援します。

当社製品を活用した「省エネ・CO2削減」「安心・安全」「業務効率化」環境を実現する「UBITEQ ECO PROJECT」活動を全社的に推進しております。



また「UBITEQ ECO PROJECT」活動の推進により、チャレンジ25参加法人としての啓蒙活動も積極的に行っております。

- UBITEQ BE GREEN SOLUTION製品
- BE GREEN Next製品
- カーソリューション製品
- 専有型
- 共用型(SaaS)
- スマートBEMS
- Home(HEMS)
- カーシェアリング車載機
- テレマティクスサービス

BE GREEN Next は、Ubiteq Green Serviceの後継製品です。

「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」の提供を通じて、環境に優しい持続可能な社会（循環型社会）作りに貢献していきます。

カーソリューション事業(UCIS事業)

※ UCIS ⇒ Ubiteq Car Information System

カーソリューション事業の歩み

2008

2009

2010

カーシェアリング: 車載端末(車種限定)



テレマティクスサービス:
車載端末(国産普通車対応)
+サーバ/WEB=システム全ての提供を実現



オリックス自動車様WEBサイト



EVエコドライブシステム開発・実証



カーシェアとテレマティクスの融合
端末からWEBまで統合した
ASPサービスの提供へ

グリーンICT
プラットフォーム

テレマティクスサービス

テレマティクスサービスとは

テレマティクスとは通信モジュール(通信機器)を搭載した車載機をいいます。

テレマティクスサービスはこの車載機で取得した車両情報を通信回線を通じて管理サーバーに取得、蓄積します。

蓄積したデータを活用して、インターネットから運行管理に有効な情報をお客様に提供するサービスです。

ユビテックはオリックス自動車(株)の
テレマティクスサービスサイトの構築・運用
を提供しています。

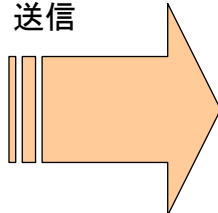


車載機を搭載した自動車は下記の情報を取得できます。

- 走行距離
- 車速情報
- 燃費情報
- 位置情報

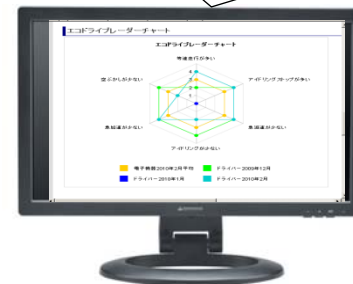
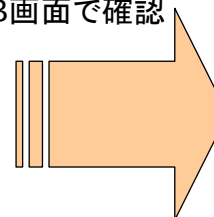
これらの情報を通信回線を通じて管理サーバーに送信されます。

取得情報を
サーバーに
送信



管理サーバー

運行管理情報を
WEB画面で確認



WEB画面から、

- ・運転日報(運転者の運転動向の確認)
 - ・車両情報(燃費、急ブレーキなど)
 - ・車両運行情報(配車計画の確認)
- が確認できます。

テレマティクスサービス特長

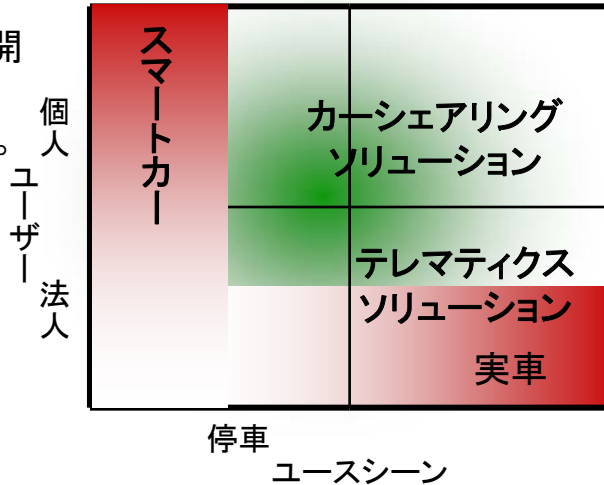
- 車両を効率的に利用できる
- 安全・安心な運転を遵守させられる
- 燃費を向上し、ECOを実現できる
- 運転日報等を自動化できる

- ドライバーの運転行動を各種データで「見える化」
- 「コンプライアンス」「環境」「安全」のリスク軽減
- ガバナンスの強化、CSRの向上を図ることができる

用途市場の分析

■ UCISの展開する用途市場

UCISが展開する市場は3つに分類。



現在、テレマティクスが成長期を迎える他、カーシェアリングは導入期であり、スマートカーは今後市場化が期待される。

スマートカー			黎明期
テレマティクス	黎明期	導入期	成長期
カーシェアリング	黎明期	黎明期	導入期
	'90~	'00~	'10~

■ 個別市場の概況

・カーシェアリングソリューション

- + 市場そのものの歴史は古く、スイスでは1987年から
- + 1stステージ: 車両電子化や社会環境動向で勃興
2ndステージ: 温暖化防止とIT進化が成長を誘因
- + 3rdステージ: 長い黎明期が終わり、現在導入期。

	開始年 (年)	車両数 (台)	会員数 (人)	1台あたりの会員数 (人)	人口 (人)	人口普及率 (%)	調査年 (年)
アメリカ	1998	8,120	448,574	55	309,140,000	0.15%	2010.7
スイス	1987	2,350	93,700	40	7,700,000	1.22%	2010.6
日本	2002	3,911	73,224	19	127,692,000	0.06%	2011.1

※交通エコロジー・モビリティ財団による2011年1月データ、およびカーシェアリング事業会社の発表

・テレマティクスソリューション

- + 車両メーカーによるサービス展開(1998年～、日本)
- + 個人への有料サービスが根付かない一方、特殊用途として発展(デジタコ、ドラレコ)。
- + 法人向け車両運行動態管理サービスとして、総合化/発展
- + 黎明期導入期を終え、安定成長期となる。

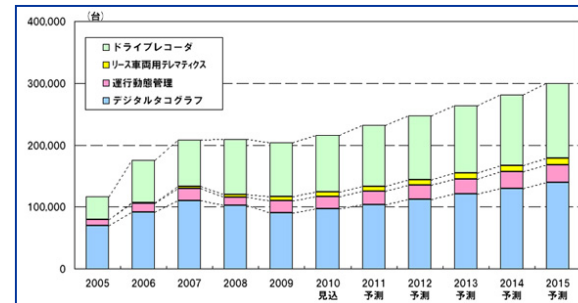


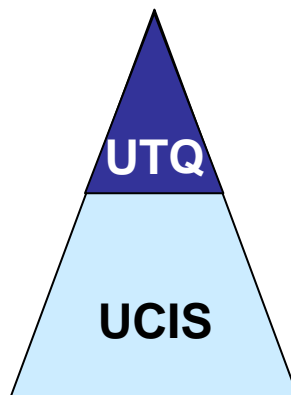
図1: 商用車向けテレマティクスサービス端末4品目別出荷台数推移(国内、05~15年度、台数ベース)(矢野経済研究所推計)

・スマートソリューション

- + スマートシティでのエネルギー貯蔵機能を提供
- + まだ概念インフラが固まらず、黎明期の段階

■ UCIS事業ビジョン

- ・車(ドライバ)をセンシング
=>機能(付加価値)を提供
- ・車(ドライバ)を分析
=>機能(付加価値)を提供



人を感じて動く。

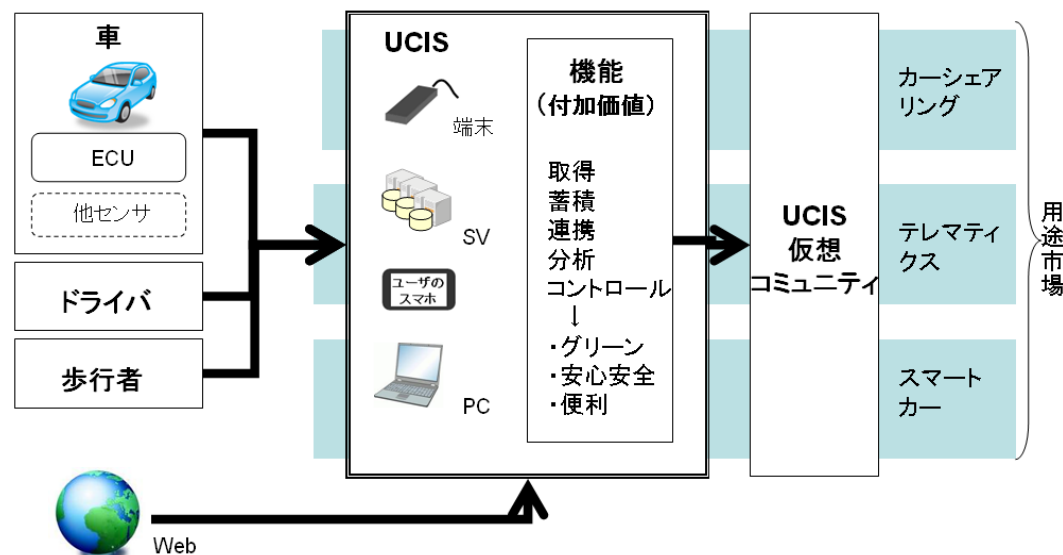
人に合わせて動く。

車(ドライバ)を感じて動く

車(ドライバ)に合わせて動く

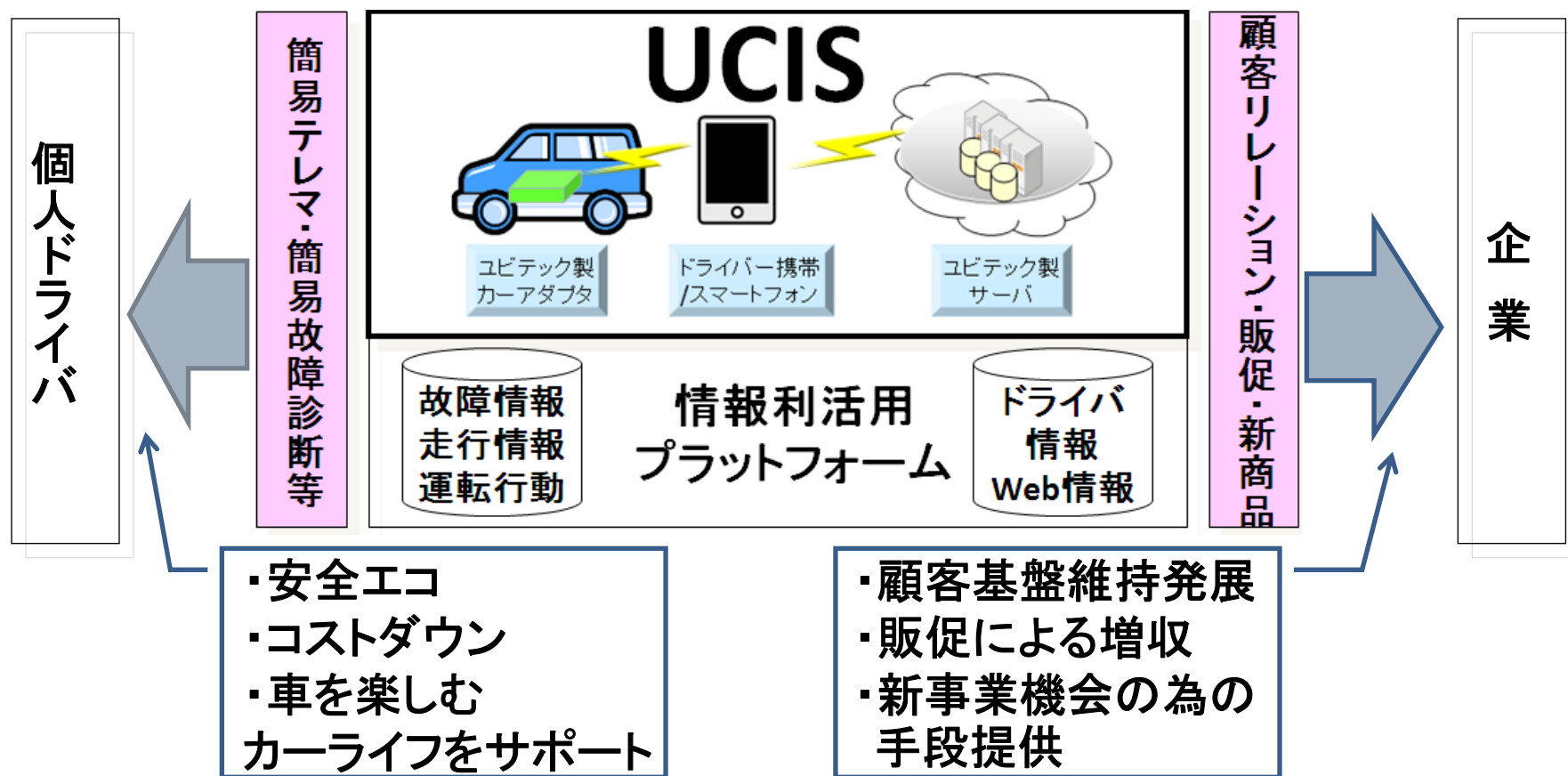
■ UCIS事業の概要

- ・車やドライバをセンシング
- ・歩行者情報取得やインターネット情報との連携等とあわせ、情報を蓄積分析
- ・カーシェアリング、テレマティクス、スマートカーといった用途市場にのせ、UCIS仮想コミュニティ(ユーザー)に対し、付加価値を提供
- ・提供するものは、グリーン、安心安全、便利



個人向け新用途開発

- ・ 個人所有の車両へUCISの展開を検討。
- ・ 個人ドライバへ付加価値を提供する他方、企業にもONLY1となるサービスを提供。
- ・ UCISは、個人ドライバと企業とをつなぐプラットフォーム機能
=> 新用途を創造する。



● 地図をベースにした車両管理

→ドコいる君は、最新の車両管理システムです。

複数の車両を同時に地図上に表示し、走行情報をビジュアライズして管理できるサービスです。

● 簡単な車載機取付け

→ドコいる君の車載機は、車両に簡単に取付けできます。
(メカニックによる取り付けは不要です。)

● iPadでサクサク利用

→ドコいる君は、iPadでお手軽にご利用できます。
iPhoneやPCでのご利用も可能です。

※テレマティクスに一般的にあるレポートサービスはありません。

●車両現在位置表示

→自社の車両が今、**ドコにいる**か一目でわかります。

●走行ルート表示

車両が**いつ、どこを、どのように**走ったか一目でわかります。

●イベント通知

車両が**イベント**(衝撃検知、速度超過など)を検知すると、直ちに**メールで管理者に通知**します。

●イベント表示

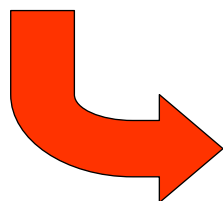
イベントの**発生日時と位置、走行経路**が一目でわかります。

- ログインすると、瞬時に全車両の現在位置が地図上に表示されます。

User ID

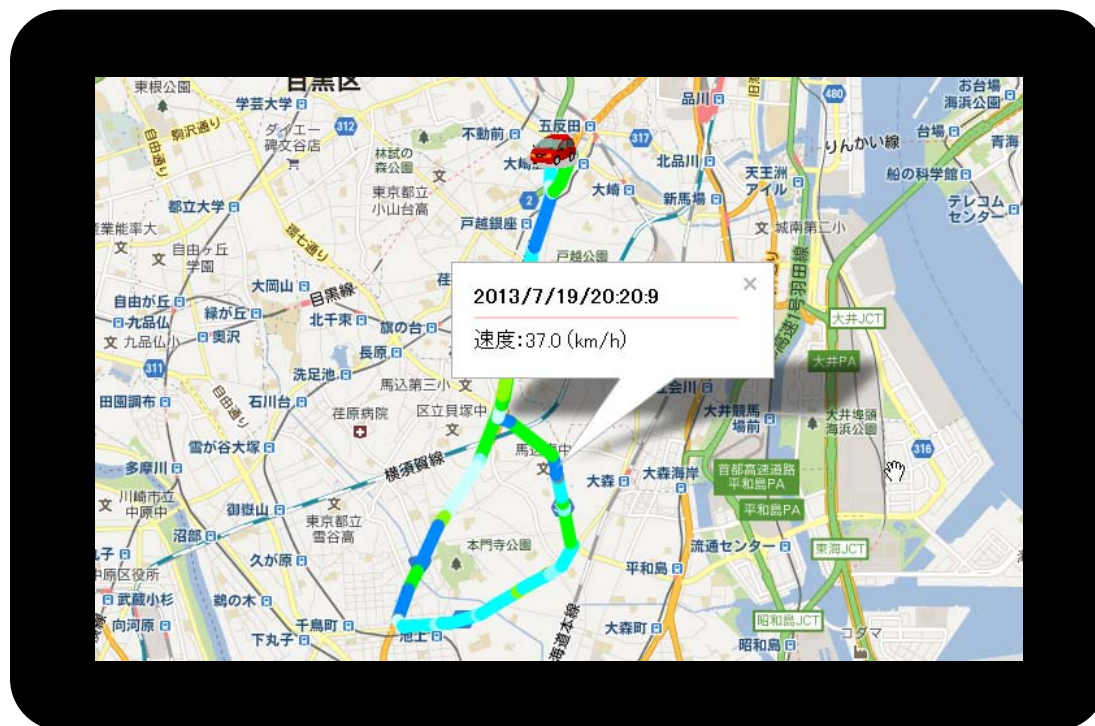
Password

Copyright(C) 2013 株式会社 ユビテック



- 車両の走行ルートを表示します。

ルートは速度によって色分け表示され、ルートをタップすると、日時と速度が表示されます。



- イベントが発生するとメールで通知します。
メールに記載されたURLからイベントの発生地点、日時を
地図表示できます。

■車両管理者様

車両ID1000で速度超過を検出しました。

発生地点の地図は、以下のURLから閲覧
できます。

http://cloudgis.ubiteq.co.jp/Spatial_Gatewaxay/xxxxxxx



● イベント発生位置の地図を表示します。

車のアイコンをタップすると、イベント発生日時とイベント種別が表示されます。

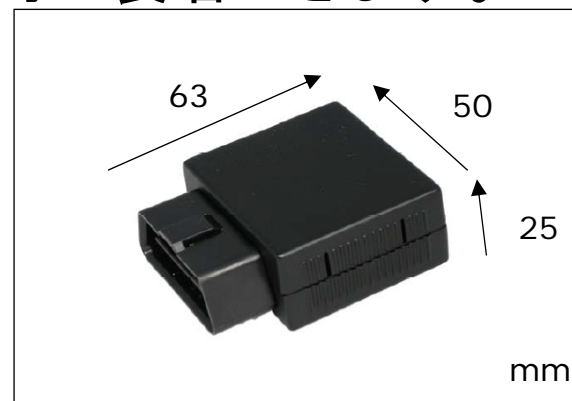


* イベントの種類

- 速度超過検出
- 長時間アイドリング検出
- 停止中の衝撃検出
- 走行中の衝撃検出
- 盗難検出

● 車載機の取付け方法

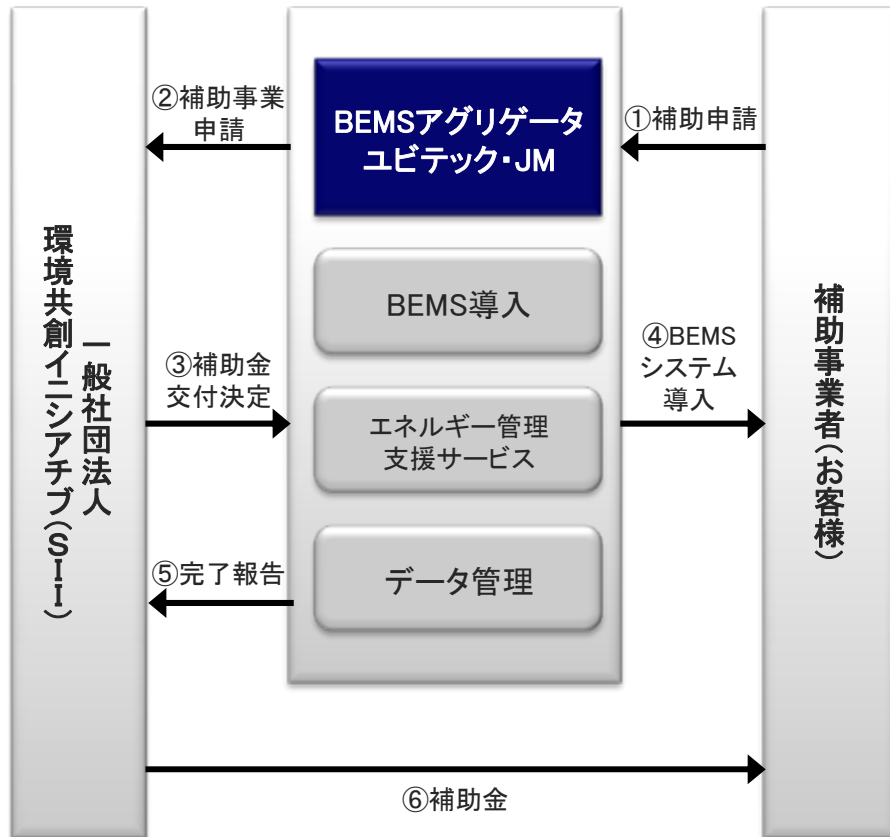
→誰でも簡単、ワンタッチで車両に装着できます。



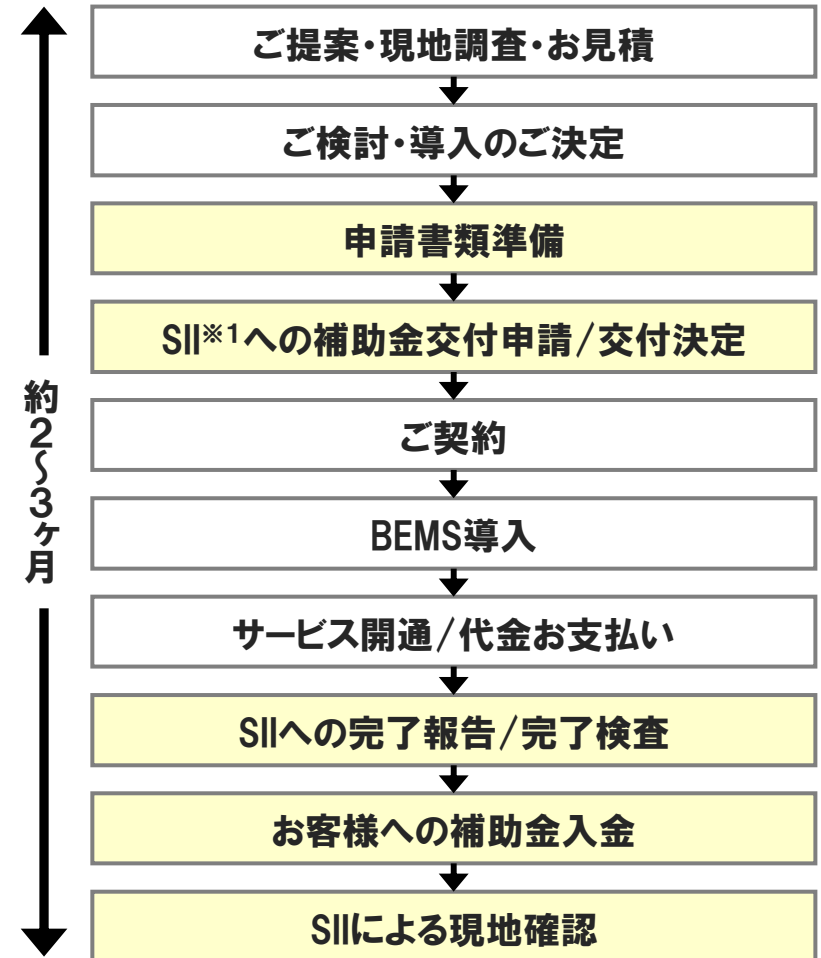
環境エネルギー事業

- ・BEMS補助金、および「BE GREEN Next」の新製品
「スマートBEMS」について

補助金スキーム

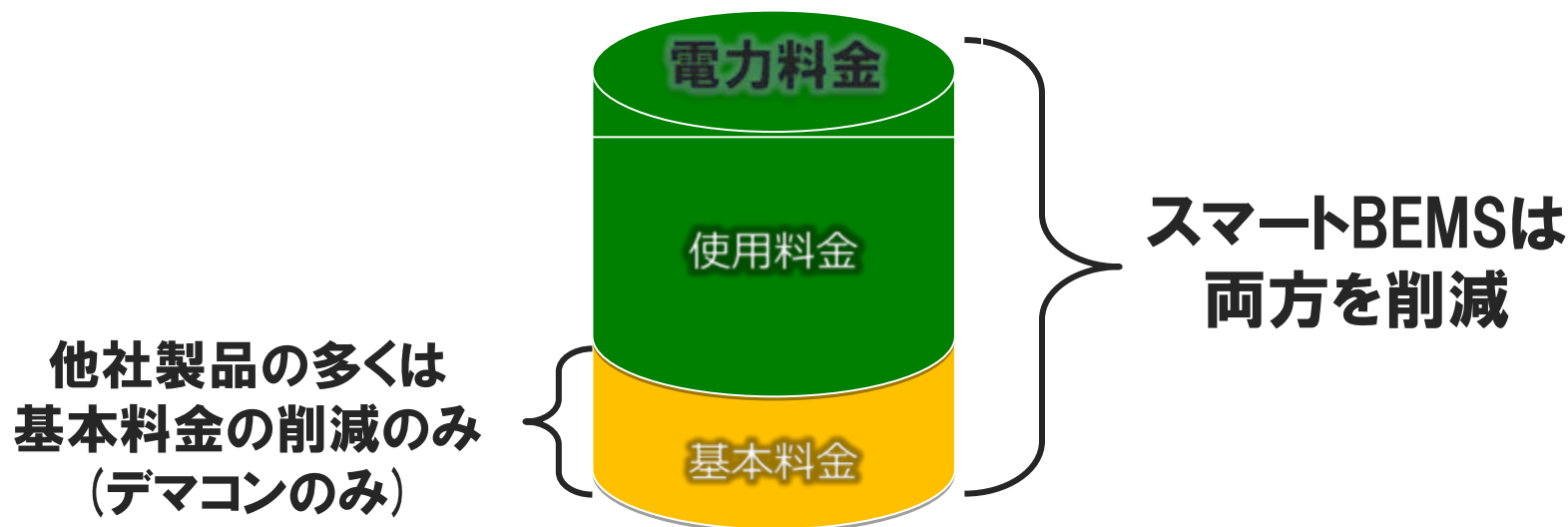


導入までの流れ (黄色は補助金関係)



※1: SII: 国の代行で補助金を執行する事務局。

BE GREEN Nextの新製品であり、電力料金の「基本料金」と「従量料金」の両方を削減する補助金対象の省エネソリューションです



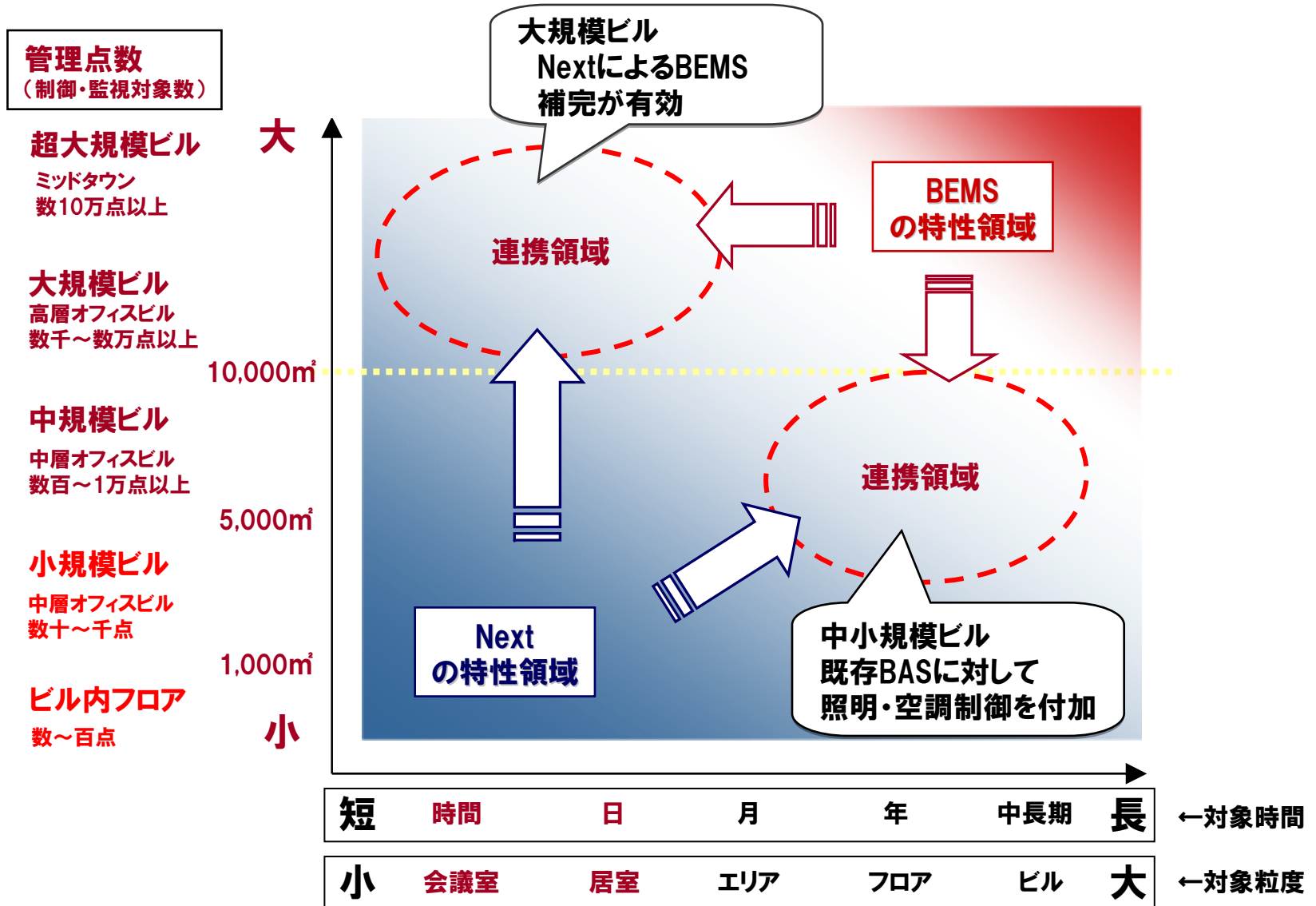
経済産業省BEMS補助金

機器に1/2補助

工事に1/3補助

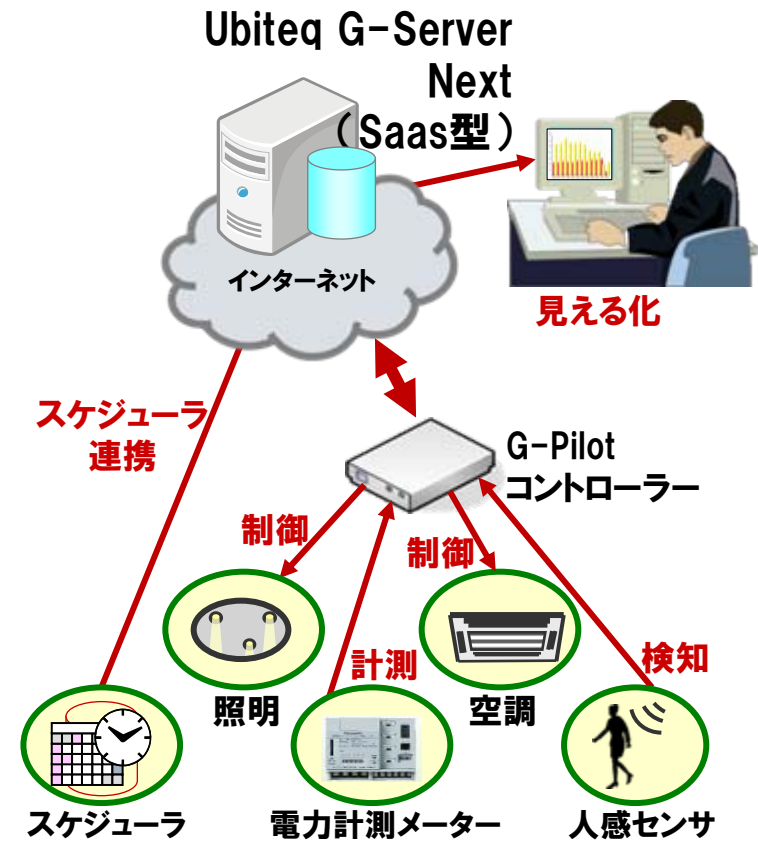
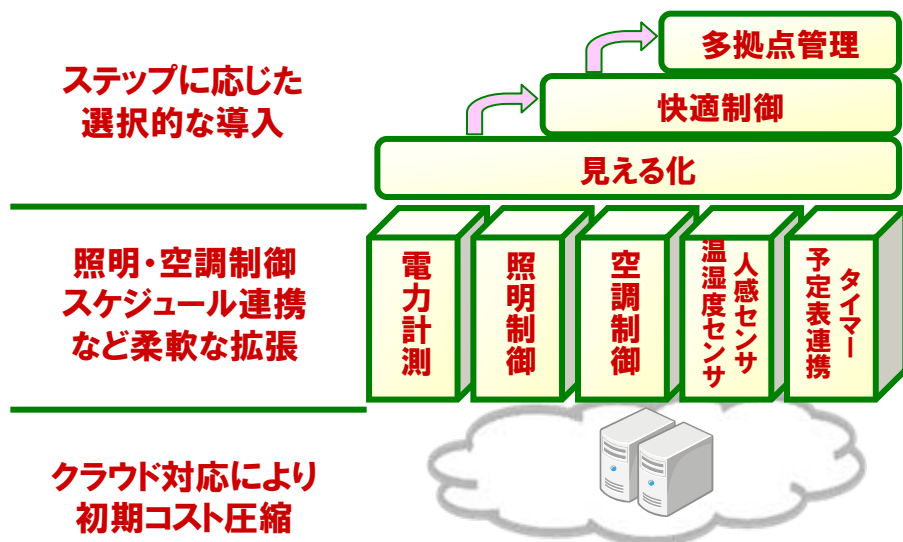
平成26年3月まで

BE GREEN Nextと BEMSの位置づけ

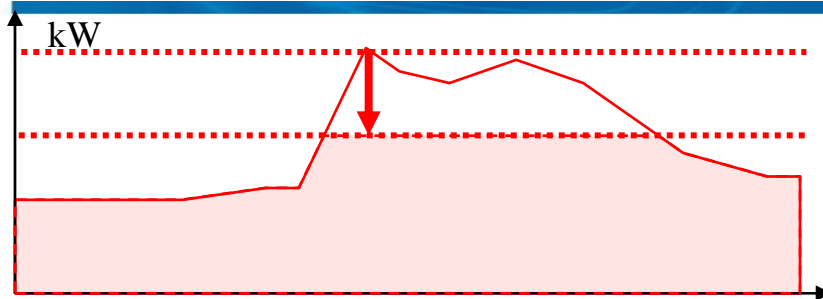


BE GREEN Nextとは

- BE GREEN Nextは、インターネット上のSaaSサーバ(UBITEQ G-Server Next)から遠隔で電力使用量の計測、照明や空調等のビル設備の制御を行い、快適性を維持したまま節電を実現します。
- お客様にサーバ装置を導入する場合と比較して、導入コストや導入期間を削減できます。



二つの節電



A. ピークシフト

- ・ ピークを下げる

【対策】

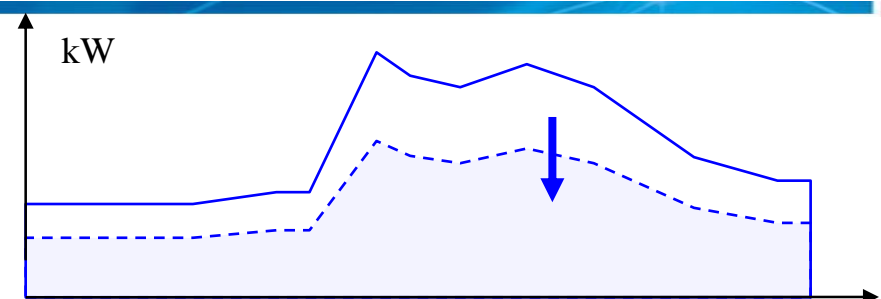
- ・ 利用時間をずらす
- ・ 使いすぎたら電源を切る

基本料金削減

BE GREEN
Next なら

電力デマンド通知機能

- ✓ 目標ピーク超過でアラーム通知
- ✓ 通知と同時に自動制御で対処
- ✓ レベル設定、復帰制御も可能



B. 総量削減

- ・ 全体使用量を下げる

【対策】

- ・ こまめな節電
- ・ 空調設定温度調整

電力量料金削減

CO2削減

BE GREEN
Next なら

連携制御

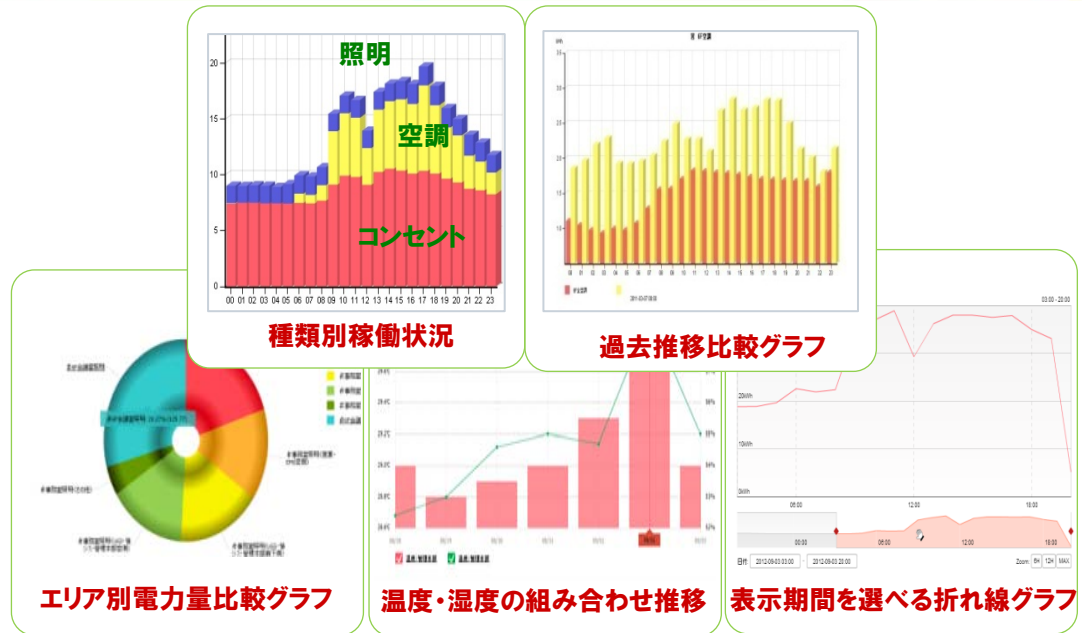
- ✓ 人感センサー、タイマー、会議室予約など様々な連携機能で無駄を発見、自動対応
- ✓ テンプレートで空調間欠運転など人手でできない小まめな制御に対応

自動制御できるBE GREEN Next ならどちらも下がります。

●電力の把握・見える化 本社や各拠点のリアルタイム消費電力量を把握、グラフ表示で見える化

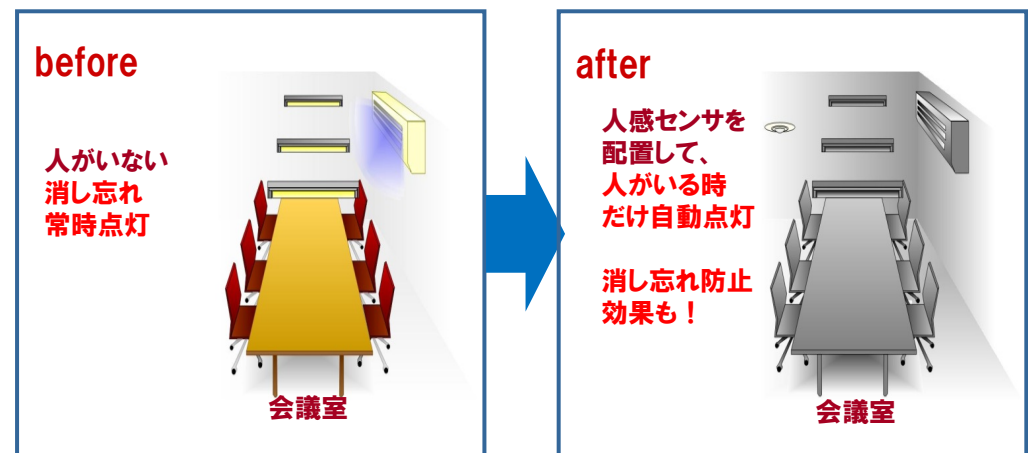
見える化パック
NEXT-ENERGY-LITE

見える化スタンダード
NEXT-ENERGY



●照明・空調制御 既存または新規に導入される照明・空調等の設備を自動で管理・制御 人感センサー連携、タイマー制御 スケジュール制御

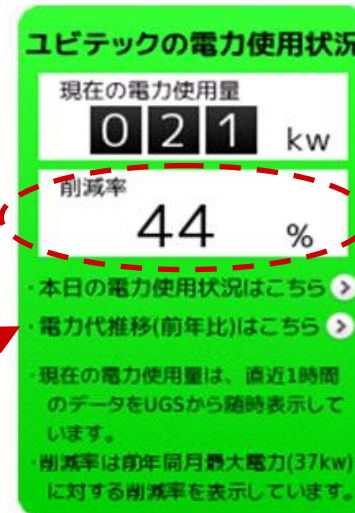
照明・空調制御スタンダード
NEXT-OFFICE



当社のホームページ上に、現在の電力使用量と削減率を公開しております。



● 電力使用量 (BE GREEN Nextより)



※HPのトップ画面に、「現在の電力使用量」「削減率」を公開

※上記の点線内をクリックすると、「当日の一時間毎の電力使用量」「電力代の削減実績(前年比)」をそれぞれグラフ表示

Interpol Tokyo 2011 Best of Show Award ソリューション & サービス部門 特別賞

- Ubiteq Green Service 出展ポイント
 - IPv6対応
 - 国際標準の通信規格であるIEEE1888を搭載し、LED電球やオフィス設備機器と接続させ、電力の見える化、自動制御
 - シスコのエネルギーソリューションである「Cisco® EnergyWise」機能に対応



協賛企業
 キヤノン | ソリューションズ (株)
 クロスボー (株)
 サンワコムシステムエンジニアリング (株)
 ディーアイエスソリューション (株)
 ネットワンパートナーズ (株)
 日本マイクロソフト (株)
 -特別協賛: LED照明提供-
 (株) 大塚商会

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会主催 第7回ファシリティマネジメント大賞 技術賞

ファシリティマネジメント大賞は国内におけるFMの普及・発展を目的とし、FMに関する優れた業績及び功績のあった組織と個人を表彰しています。

「自社開発のITによる省エネシステムUbiteq Green Service (現: BE GREEN Next)を活用した省エネ活用事例」で、ファシリティマネジメントに関する新しい手法、技術の取り組みが行われている企業として「技術賞」を受賞いたしました。

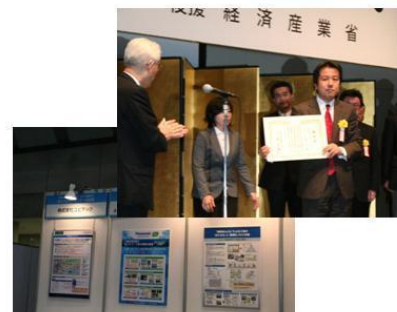


グリーンIT推進協議会主催 グリーンITアワード2011 「ITによる社会の省エネ(by IT)」部門 経済産業省商務情報政策局長賞



グリーンITアワードは低炭素社会実現に貢献する優れた製品・技術・活動に対して表彰を行う制度です。Ubiteq Green Serviceは「ITによる社会の省エネ (by IT)」に貢献したソリューションとして経済産業大臣賞に次いで優れたものと評価をいただき、経済産業省商務情報政策局長賞を受賞いたしました。

一般財団法人省エネルギーセンター主催 平成24年度省エネ大賞 「省エネ事例」部門 省エネルギーセンター会長賞



「省エネ大賞」は、日本国内の省エネルギーを推進している事業者及び省エネルギー性に優れた製品又はビジネスモデルを開発した事業者を対象とし、優れた省エネ活動事例や技術開発等による先進型省エネ製品を表彰し、省エネルギー意識の浸透、省エネルギー製品の普及促進等に寄与することを目的としています。

「省エネ事例部門」において、省エネ活動のピーク電力抑制・ピークシフト等の取組みを含めた、Ubiteq Green Service (現: BE GREEN Next) の機能と自社活用事例を紹介し、有効な省エネへの取組みが行われている企業として「省エネルギーセンター会長賞」を受賞いたしました。

沖縄セキュリティ&テスト検証センター

モバイル端末評価の歩み

ユビテックは1996年より検証業務を開始し、いずれのお客様についても仕様にもとづく試験を完了した後、最終確認フェーズで評価を担当させていただきました。

当社評価の特長は**ユーザエクスペリエンス=UX技術**(リスク分析、利用シーン分析)を活用した独自手法により、**テスト仕様書外の不具合検知実績**において、高い市場評価をいただいております。

◆フィーチャーフォンPDC端末登場

◆Windows Mobile端末登場

◆フィーチャーフォンW-CDMA端末登場

◆Android端末登場



1996年

2000年

2005年

2010年

2013年

試験手順外の不具合検知を目的としたUX評価

「知」の蓄積と発信を通じて、

アジア、そして世界につながる検証センターへ

- ・この度ユビテックでは沖縄企業と業務提携を行い、「**沖縄セキュリティ& テスティング検証センター(略称OST検証センター)**」を設立致しました。
- ・行政の支援を背景として、特に2011年以降、沖縄を拠点とした検証事業が急加速しており、沖縄を拠点に国内の検証サービスが集約される時代を迎えつつあります。今後ますます発展していくアジアへの窓口として、OST検証センターはお客様の幅広い検証ニーズに対応していきます。

■OST検証センター拠点
沖縄IT津梁パーク



○オフシェアでは実現できない **沖縄の優位性を最大限に活用**

豊富かつ、コストパフォーマンスの高い
人材資源

- ・2035年時点で人口増
※2005年比較で増加は東京、沖縄のみ
- ・他国への技術流出の懸念がない
※機密情報管理を徹底できる

OST検証センター

- ・新たな検証メニューが対応可能
・クラウド型システム検証
- ・スマートフォンアプリ・情報家電のIOT検証
...etc

最新機種を中心に充実した
検証機材(ツール)や設備

安全・安心なホスピタリティ
業務環境・滞在環境

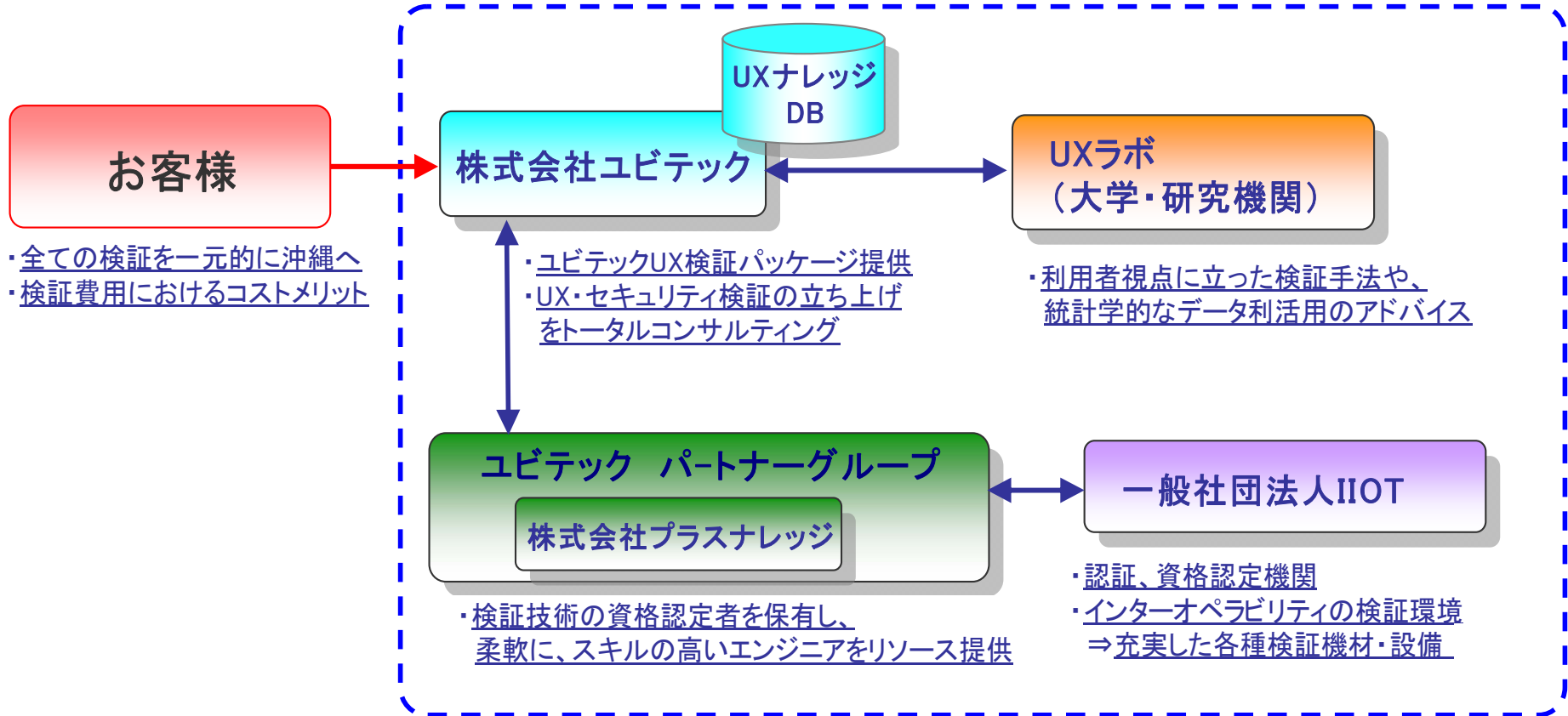
- ・沖縄IT津梁パーク
- ・沖縄GIX構築事業
- ・きんゆうIT国際みらい都市構想

- ・韓国、台湾、中国と隣接
※日本の「空の玄関」
- ・貿易特区、経済特区
※関税を含めた税制の優遇策

地理的優位性を活かした
アジアと国内をつなぐ窓口

沖縄を通じて広がる！ 検証サービスの可能性

■ 沖縄セキュリティ&テスト検証センター（OST検証センター）



※沖縄ステイ型の検証サービス

・ユビテック提携企業だけでなく、お客様が沖縄に滞在し、検証センターの試験設備（機材）やUXナレッジを活用した検証を行なっていただく事も可能です。

OST検証委託サービス ～「安心」「安全」「満足度向上」

■テスト業務をアウトソースして、製品の品質向上と経費削減を実現したいお客様へ。
提案やお見積もり、テストマネジメント等のフロント業務は経験豊富な東京スタッフが行いますので、意思疎通や納期、アウトプットの品質に不安はございません。

・スマートフォン(携帯電話) スマホ向けアプリ検証の検証サービス

- －利用シーンに基づく第3者検証(市場不具合流出対策)
- －満足度を向上させるユーザビリティ(使いやすさ)/UX評価
- －脆弱性からアプリを守る「Androidアプリ脆弱性検証」
- －スマートフォン(アプリ)と情報家電の相互接続性の検証(IOT)

・クラウド型システムの検証サービス

- －利用シーンに基づく第3者検証(市場不具合流出対策)
- －満足度を向上させるユーザビリティ(使いやすさ)/UX評価
- －Webアプリとサーバシステムに対するセキュリティ検証

OSTオンサイト検証サービス(沖縄滞在型)

- お客様ご自身がOST検証センターの設備を活用して、テストを実行いただけます。
- －検証用機材(スマートフォンや試験ツール等)貸し出し
 - －機材利用のトレーニング、OSTスタッフによる検証代行

① 確実な検証品質

OST検証サービス
3つのポイント

③ リースナブルなサービス費用

② スケジュール管理の徹底

クラウド型WEB会議システム 「CanSee」powered by Vidyo



導入実績

- 世界**2,000社**以上 (Fortune 100企業、中小企業含む)
- サービスプロバイダ**25社**以上、リセラー**300社**以上
- Google+ users¹ **6,500万人**— powered by Vidyo



業界での 認知

- Wall Street Journalが選ぶベンチャー企業**10,000社**で**11位**にランキング
- **9700万ドル**以上の投資
- **12名**のPhD、**3名**のエミー賞受賞者を有するR&D拠点



イノベーション

- 革命的なビデオ会議システムアーキテクチャー
- 特許取得数**18**, 特許出願中**46**
- インターネットでの多地点HD接続を初めて実現



拡張する プラットフォーム

- OEMパートナー **5社**
- 画期的なアプリケーションを開発する**50社**以上のパートナー企業
- 数百もの医療、教育、政府機関への展開

特長 01 高解像度な映像・音声処理を実現したビデオ会議システム

最新の映像符号化「**H.264/SVC**」に対応。映像信号を複数の解像度に複層化し、同時に複数チャンネルで送受信することで、ネットワーク環境や端末環境に応じた乱れのない最適な映像・音声の送受信を実現しています。

特長 02 MCU(多地点接続装置)不要の大規模多地点接続のサポート

従来の会議システムに必要とされた多地点接続装置(MCU)を不要とし、**最大300地点**を接続したビデオ会議を可能としました。MCUを不要とすることで、遅延を抑えた高画質・高音質を実現し、初期導入にかかる費用並びに導入後の維持にかかる費用を大幅に削減しました。

特長 03 インターネット、イントラネット、国内、海外 場所を問わない利用形態

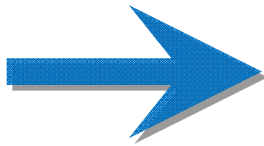
回線の状況をリアルタイムに把握し、最適化を行い、低速回線でも、他拠点に影響を及ぼさないシステム。**NAT/ファイアウォールにも標準対応**し、低コストで幅広いネットワークに対応可能です。

機能紹介①

最高フルハイビジョンの画像品質



他社会議サービス
320×240(30fps)



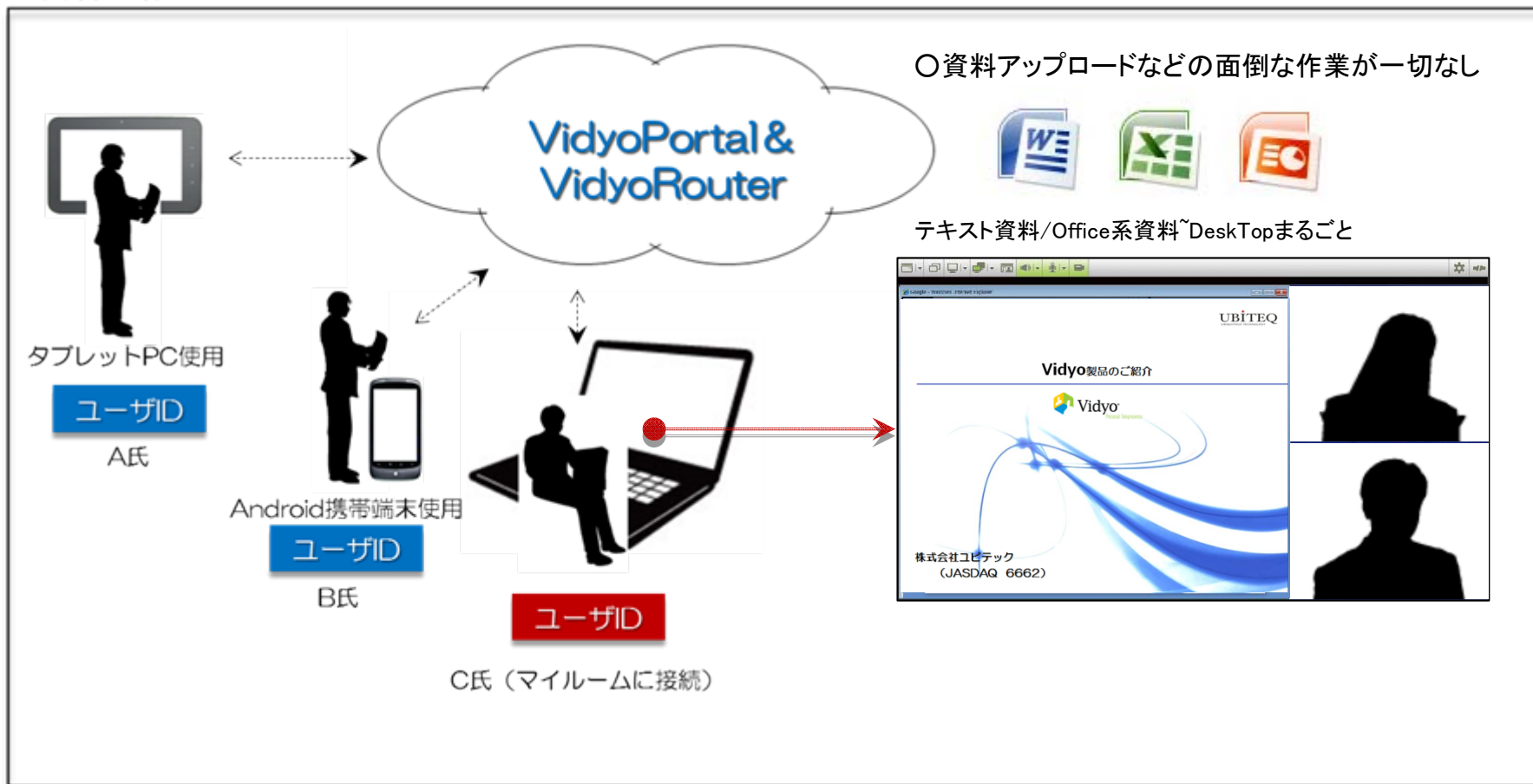
他社会議サービス
映像ブレが多い。



標準で、最高フルハイビジョン画質1920×1080(30fps)を実現
更にH.264/SVCに対応し、映像ブレがほとんどありません。

・映像が驚くほどきれいで臨場感があります。回線などに左右されて映像がブレたり乱れたりすることがほとんどありません。
※標準で最高フルハイビジョン画質1920×1080(30fps)を実現、更に映像信号を低解像度、中解像度、高解像度に複層化し、同時複数チャネルで送受信することで、ネットワーク環境や端末環境に左右されない乱れのない最適な映像と音声の送受信を実現しています(H.264/SVC)。

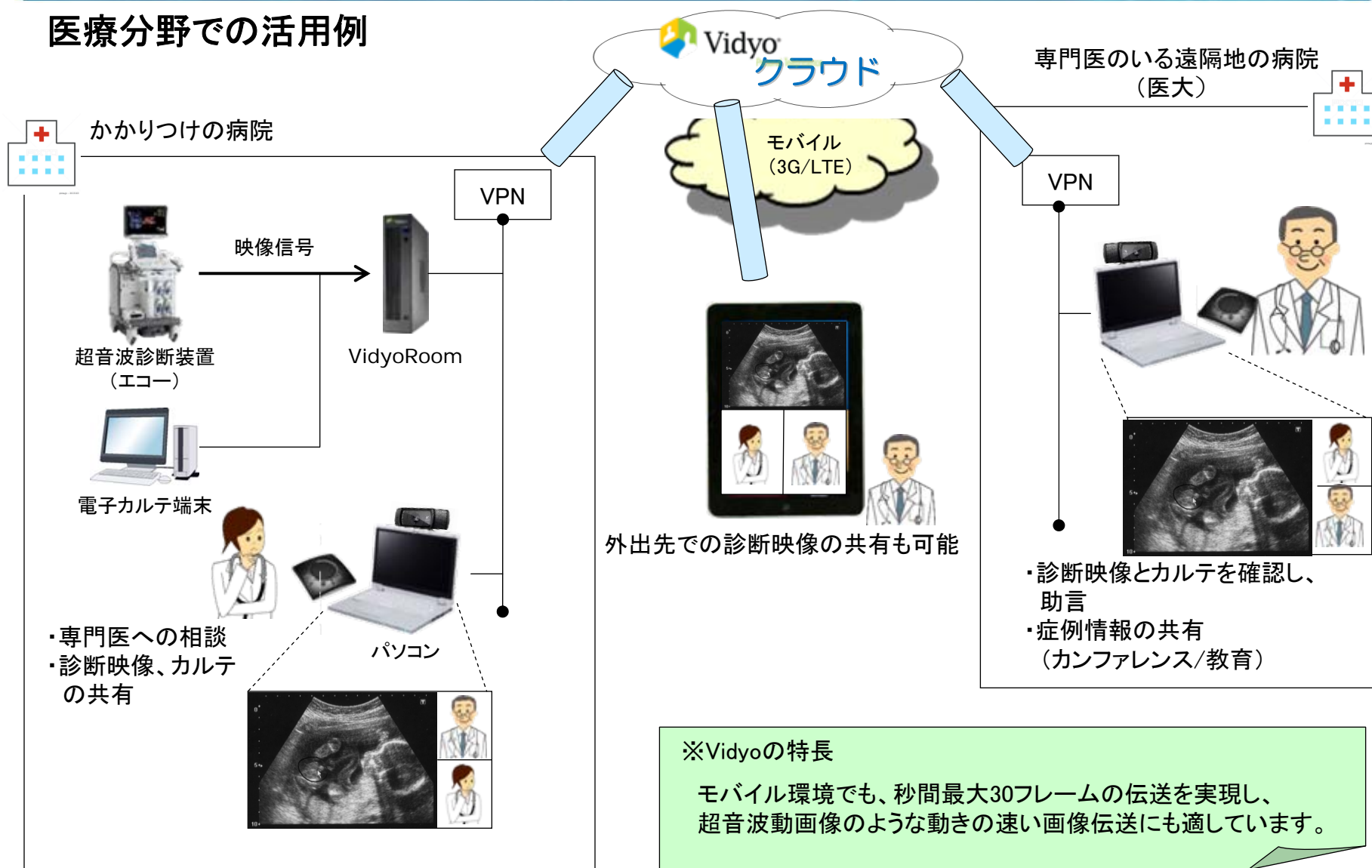
資料共有



・資料共有・画面共有が、面倒なアップロードなどの準備作業なしにできます。※PC接続から表示
※上のimage3イラストでは、C氏が資料を共有しています。A氏、B氏はそれぞれの端末でC氏と会議をしながら閲覧できます。

導入事例

医療分野での活用例



「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」

を先進のユビキタス技術で実現する
新環境ソリューション

わたしたちに来ることをひとつずつ。



本日は誠にありがとうございました。

(本資料ならびにIRに関するお問合せ先)

株式会社ユビテック

管理本部 総務課

電話 03-5487-5560 FAX 03-5487-5561

<https://www.ubiteq.co.jp/contact/inquiry2.htm>